

# 平成21年度北上市企業の地域貢献褒賞 表彰式 みんなの地域貢献フォーラム

2010年2月6日 14:00~16:30  
北上市生涯学習センター 第1学習室  
参加者：68名

## 1. 開会

## 2. あいさつ

北上市企画部部長 八重樫民徳

担当部の企画部、八重樫民徳と申します。この地域貢献フォーラムも第2回目を迎えるわけですが、多数参加していただきましてありがとうございます。市内外からたくさん参加していただきありがとうございます。

今日、表彰式を行うわけでありまして、それぞれ地域に対する、あるいは市に対する功績、大変ありがたいと思っております。今後とも引き続き、企業、行政、市民、三者一体になって、盛り上げていかなければならないという時代になっておりますので、なお一層のご協力を引き続きお願いしたいと思っております。

この後、岸田先生をお迎えしまして、基調講演をやることになっております。長い時間になりますけれども、どうぞ最後までお付き合いをいただきたいと思っております。

北上市としましては、22年度で現在の総合計画が、締めめの年になります。ただいま23年度から10年間の計画を練り上げているところでありますけれども、その中でも企業のご支援、あるいは市民の参加等で協働で行政を進めていきたいという理念がありますので、引き続きご支援をお願いしたいと思っております。

本日は御苦勞さまで。簡単ではありますが、ごあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

## 3. 基調講演

「より効果的な地域貢献の仕組みとは」

講師：岸田 眞代 氏

(特定非営利活動法人パートナーシップ  
・サポートセンター代表理事)

ただいまご紹介いただきました、名古屋から参りました、パートナーシップ・サポートセンターの岸田と申します。今日はこういった地域の貢献活動をやってらっしゃる企業の皆さんとお話しできることが私にとって大変光栄でございます。我々の活動がさらにこの地域で広がっていくかなど、そんな期待を込めて今から50分程度お話しさせていただきたいと思っております。できるだけ皆さんにとってもこれからの活動に有効になるようにと思っております。

**PSC**  
みんなの地域貢献フォーラム  
「より効果的な地域貢献の仕組みとは」  
[基調講演]事例から学ぶ！  
企業の地域貢献  
2010.2.6 岩手県北上市生涯学習センター  
特定非営利活動法人  
パートナーシップ・サポートセンター(PSC)  
岸田 眞代

タイトルは勝手に私の方で付けさせていただいたので違っているかもしれませんが、内容としては変わらないと思っておりますのでご了承ください。

それでは始めたいと思っておりますが、我々パートナーシップ・サポートセンターといっても名古屋ですから、おそらくご存知の方はいらっしゃるのではないかと思います。少しご紹介かたがた、なぜ私どもがこんなことをやっているのかということについても触れさせていただきます。それから、NPOと企業、行政の違いが、我々にとっ

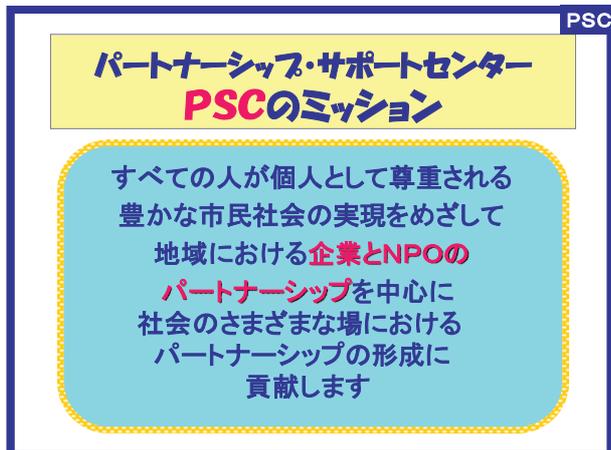
てはNPOと企業の協働を推進するということに実は大きく関わってくるということにもつながりますので、この辺りも含めて、協働事例をパートナーシップ大賞という我々が行っている事例からご紹介したいと思います。

それから、おそらく皆さんもCSRという言葉をよくお聞きだと思いますが、NPOとどうつながっていくのか、それからなぜパートナーシップが必要なのかということに踏み込みながら、協働事業で何が得られるか、行政と企業の協働もさることながら、企業とNPOの協働にも踏み込んでいかなければ、と思っています。

実は、私は昨日、愛知県の事業の企画で、協働事業の仕分けをやってきてすごく盛り上がりまして、まさに行政とNPOの協働事業が、今色々な事業が行われている中で、もっとたくさんあるのではないかと、それを引き出すための事業仕分けをやってきたのですが、そういったことも含めてこれからお話をさせていただきます。

## 0. はじめに～パートナーシップ・サポートセンター（PSC）とは

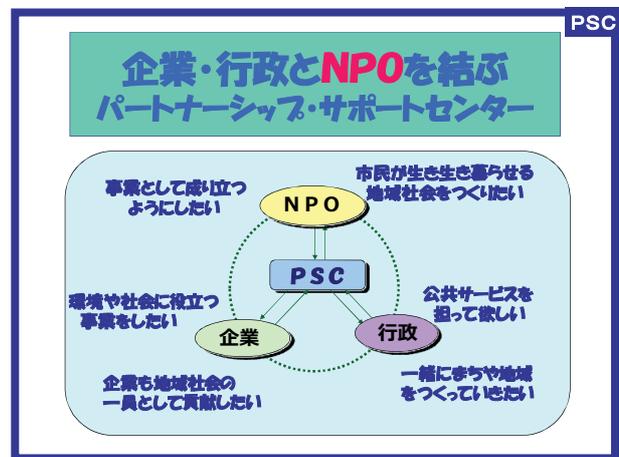
我々のミッションの中に、「すべての人が個人として尊重される豊かな市民社会の実現をめざして」、これはおそらく、今日はNPOという言葉でお話させていただくのですが、市民活動をやっている方は全て共通している部分だと思います。その中で特に、「地域における企業とNPOのパートナーシップを中心に」、この部分を私どもたぶん全国で初めて入れた団体でもあるのですが、そのなかで「社会のさまざまな場におけるパートナーシップの形成に貢献」していこう、ということです。



NPOは新しい動きとして、法律ができて12年になっていますが、右側に書いてある「生き生き暮らせる地域社会」、これは本当に共通した願いだと思いますが、同時に「事業として成り立つようにしたい」というNPOもどんどん増えている、ということです。

一方、それに対して企業は、おそらく「地域社会の一員として貢献したい」という願いを持っていると思います。今日お越しの皆さんそうだと思いますが、「環境や社会に役立つ事業をしたい」という願いを持っていらっしゃることも多々あると思います。

実は、一方行政の方も、少子高齢社会の中で税収がどんどん少なくなっていますから、公共事業、公共サービス、こういったものをどうやってこれから分担していくのか、というところが大きなポイント、それを一体誰が担っているのだろうということだと思います。そこで出てきたのが新しい公共だと思います。その新しい公共を担う役割として、我々は企業やNPO、それから行政やNPOというかたちで、NPOの存在を中心にしながら協働を推進していこうというのが我々の役割だと思っています。



## 1. NPOと企業は何が違うのか ～各セクターの役割

NPOと企業は何が違うのかというところで、各セクターの役割をもう一度確認をしておいていただきたいと思います。

行政というのは、当然のことながら法冷による社会的合意を得たものに対して、公共サービスを行うというのが行政の役割ですから、税金を使うという以上、平等でなければいけない、公平でなければいけないということになるのですが、それ

は裏返すと、時として確立的にならざるをえないということが多々あります。

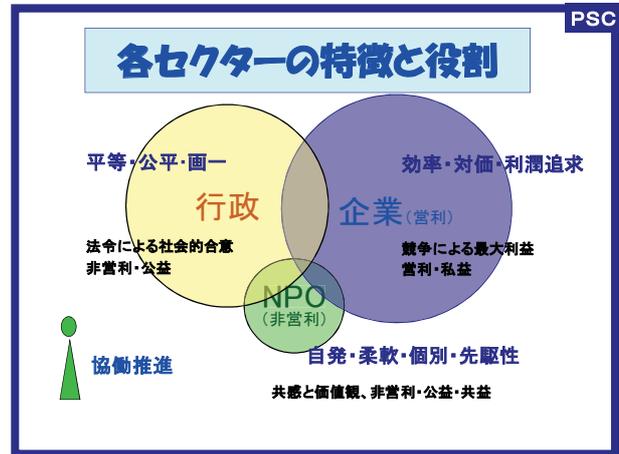
神戸の阪神淡路大震災の時に、あの時からボランティアというものがクローズアップされたと思うのですが、当時リュックを背負って今すぐボランティアをやりたいと言って押しかけた人達がいって、あまりにいっぺんにたくさん来られると行政の側はうまく対応しきれなくて、「まずは名簿に名前を書いてください」「自宅で待機してください」という対応をせざるを得なかったそうです。それは言ってみれば、公平でなければならない、平等でなければならないということから、順番を無視してはいけないなどの思いがあったことだろうと思いますが、裏返して言うと、今ボランティアをやろうと思っていた人にとってみれば「待機をしてください」と言われると、結局その時間だとかエネルギーだとかが必ずしも活かされないと思ってしまう、ということが多々ありました。現実、私も目にしてきました。

一方、企業というのは、いわば競争による最大利益を追求するという組織です。ここが明らかに行政の、税金を使ってやる、ではなくて、自分達の儲けたお金で活動していくということになるわけですから、そのためには、効率的である、あるいは対価を求めるといふことはある意味当然であるわけです。しかし、それが裏返すと、様々な企業の弊害や不祥事を生んできたということもあると思います。

そういうことに対し、NPOは、阪神淡路大震災の時もそうだったのですが、殺到する人達を「このエネルギーを何とかしなければならぬ」と一生懸命考えました。その時に某代表者が、今では色々な災害の時にも使われているかと思いますが、「今どこでどんなボランティアを求めています」というのをホワイトボードに書いたりして、それを皆さんがリュック背負っていった時に「私はこのボランティアだったらできる」という内容のところに名前を貼って、現地に直接行って説明を受けてボランティアに取りかかる、という方法を実はNPOがその時にあみだしたのです。これが今使われているかと思いますが。そういったことを、柔軟に、自発的に行うというのが、ある意味NPOの良さとも言えるわけです。

そのことによって実は、NPOだけではなく、企業の側の「もっといい企業でありたい」と願う

人達、今日表彰される企業の方達もそうだと思いますが「地域から感謝される、あるいは尊敬される、そういう企業でありたい」と願う企業の方達と、私達は協働ということをすることによって、色々な場合、色々な地域の問題に対応していけるのではないかと、ということで先ほど言った我々のミッションを立ち上げたということになります。



## 2. NPOと企業の協働事例

### ～「パートナーシップ大賞」から

#### 1) 「パートナーシップ大賞」事業がめざすもの

パートナーシップ大賞の事例をお話したいと思いますが、まずはそのパートナーシップ大賞とはいったい何か、皆さんご存じないと思いますので、少し紹介をさせていただきます。

これは何を指したかといいますと、企業というのは先ほど申し上げましたように、営利を追求していくところです。ところが一方、NPOというのはご存じのように、ボランティアだけではないのです。もちろん利益を得ても構わないのですが、しかし利益が目的ではないということです。

したがって、非営利組織という名前と言われるように、利益・営利を目的としている組織ではないということによって、どうも企業とNPOは相いれないものだという風に思われがちだったのです。

しかし、その協働の可能性というのはいくらでもあります。

つまり、行政というのは税金を使うわけですから制約があるわけですが、企業はそういう制約はありません。NPOもあくまで民間ですから、自由な発想と自由な行動力でなんでもできるわけです。

したがって、民間である企業とNPOの協働の可能性を示すことによって、社会の様々な課題、地域の問題、そういったものを解決していきけるのではないかと、というのがそもそもの発想でした。

実は、私ども立ち上げる時からこれを考えてやろうと思ったのですが、しかしパートナーシップ大賞を最初のころはできなかつたのです。企業からも反対され、NPOからも反対され、98年にパートナーシップ・サポートセンターを立ち上げたのですが、パートナーシップ大賞ができたのは2002年です。つまり、4年間はやろうと思ってもできなかつたという背景があります。

それはなぜかという、企業もNPOもそれぞれ自由な民間の活動ですから、そういう意味ではその活動にいちいち評価なんかされたくない、という思いが当時はとても強かつたのです。

今、トヨタ自動車さんはじめ、大手の企業も会員になってくださっています。毎年お正月に理事合宿というのをやっています、企業の方も理事になっていただいて、行政の方も時々入ってくださっていて、理事合宿の中で4年経ってようやくゴーサインが出た、ということで始めたのですが、これはNPOからみた、企業の社会的責任を推進していくということでもありました。

PSC

### 「パートナーシップ大賞」事業 がめざすもの

- ◆ 企業とNPOの協働の可能性を示し、協働の意味や価値、大切さを社会にアピールし、両者の協働を推進することによって**社会の課題**を解決する  
=> NPOからみたCSR(企業の社会的責任)の推進
- ◆ 企業 - 「いい企業」という評価基準の提示  
- 従業員の**自社に対する誇り**の醸成
- ◆ NPO - 一回り大きな活動と**社会的認知・寄与**  
- 組織的な見直しや発展、ひいては**NPO全体の底上げ** (協働できる自立した組織へ)

## ○企業にとっての意味

企業にとってこれはどういう意味を持つのか。これまで「大きいことはいいことだ」「どんどん売上げも伸ばさなきゃいけない」「拡大しなければいけない」、つまりどんどん大きくしていくことが、ある意味企業の評価だったと思うのですが、12年前、その当時は「いい企業」ということをもう一度見直してみてもどうか、というこの評価基準を改めて提示していこうということです。

もうひとつは、私自身は産業能率大学の企業の

研修を本業でやっていたのですが、企業の色んな研修をやっていると、ボランティアとかNPOの話をやっていると、従業員がものすごくいきいきと輝くのです。それは何なのだろうと色々考えました。

それは言うてみれば、今自分が働いている会社が従業員にとって誇りのもてる会社かどうか、これはすごく大きなところだと思います。

例えば、不祥事を起こした会社で働いていると肩身の狭い思いをしなければいけないわけです。ですから「誇りをもてる会社で働きたい」これはみんなの願いでもあると思います。

そういう意味では、このパートナーシップ大賞が、誇りをつくる一環になればいいなと思いました。

## ○NPOにとっての意味

一方、NPOにとっては、お金がないとか人もいない、場所もない、という「ないないづくし」の活動をやっているNPOが多いわけですが、そういう人達が企業と協働することによって一回り大きな活動ができるようになる。そのことによって、社会的認知・社会的寄与ができる、ということです。これがすごく大きいわけです。

したがって、企業と協働することによって、小さなNPOがどんどん大きくなるとか、しっかりしていく、こういう例は実際にあるわけです。そういう組織的な発展、ひいてはNPO全体の底上げにもつながるなということは私自身の願いでもありました。

## 2) パートナーシップ大賞の事例から

これまで2002年から6回やってきたのですが、いわゆるNPO法の中の17の活動分野で言うと、ほぼ全ての分野で応募事業がありました。消費者保護以外ということになります。実際には応募企業延べ352社、応募NPO185団体、全国北海道から沖縄まで32の都道府県から応募がありました。ちなみに岩手県はまだ1です。遠野の例です。遠野の例は前回、第6回に入賞しています。後から紹介します。もちろん東京が本社が多いのですが、全国でかなり広がってきているのかなと思います。したがって、これからこの北上市を中心に、岩手もどんどん増やしていただければありがたいなと思っています。



大きくなって使えないとか、あるいは手動式から電動式に変えたので倉庫に眠っているとか、そういう車いすを提供してもらって、日本では使われないけれども、海外、特にアジア、ベトナムやタイなど、そういう所で活用してくださいませ。

きれいにして、修理をして、持って行くのですが、そこに飛んでいってもらおうというわけですが、普通だったら航空便で送るということになります。

でもここがまさにNPOの知恵、アイデアです。どうしたか。海外旅行者にボランティアで手荷物として持って行ってもらう、というアイデアです。したがって、タダで持っていけるわけです。お金をかけずに、しかも誰の車いすを誰に渡すかという、face to faceの関係で海外旅行者が持って行ってくださるわけです。

その持って行くときに、札幌通運という会社の、労働組合が最初のきっかけだったのですが、その人達が、新千歳空港まで、もちろん修理してきれいにしたものを運んでくださるわけです。そのまま海外旅行者は持って海外へ飛ぶという、そういう仕組みです。

では、その時、企業は何をしたか、というと、最初は「飛んでけ！車いす」の会さんが立ち上げの時に「集配はいいが、保管する場所がない。誰かいないかな。」と探していた時にたまたま頂いた名刺をきっかけに、札幌通運の労働組合の所にFAXを送って「誰か倉庫会社知りませんか」という問いかけをしたら、その労働組合の当時の書記長が、「自分が新入社員だった時の上司が今倉庫会社に行っている。その人に掛け合ってください。」というところからはじまって、まず保管場所というところから協働が始まりました。これも協働です。「場所を提供しよう」と言ってくれたのです。札幌市内だったら「飛んでけ！車いす」の会さんも取りに行けるのですが、北海道の網走でとか稚内から「車いす取りに来てください」という電話がかかってきた時に、自分たちでは行けない。札幌通運さんは仕事で北海道を回っているのだから、トラックが空いた時にそれを積んでくれないませんか、というお願いをして、それで運んでくださるようになったのです。

つまり、会社の従業員は仕事ではあるのですが、トラックが空いた時に積んで帰ってくる、というボランティア活動から関わり始めたのです。

そうすると、労働組合の組合員さん達が運んできたり、修理したり、それから千歳空港まで持って行ったり、ということをやってくださるようになって、マスコミが取り上げるようになったのです。

その時に、出てくるのが、札幌通運労働組合、組合の名前が出てしまうのです。ですから、これはせっかく会社としてやるのだったら会社ぐるみで支援したほうが、会社の名前が出せるということで、労働組合から会社全体での支援ということになっていきました。

今は、「飛んでけ！車いす」の会さんは、札幌通運のビルの2階の一角を借りて、事務所にして、そこを活動拠点にしています。ここがすばらしいです、札幌通運さん。「3階が半分空いた。」となったら、「じゃあ、他のNPOで入るところは貸しましょう。」と。「8階が空いた。1フロア一空いちゃった。」、ここは札幌駅から5分ぐらいのとていい場所にあるのですが、「じゃあ8階はNPOの人達に貸しましょう。」ということを考えてくれました。

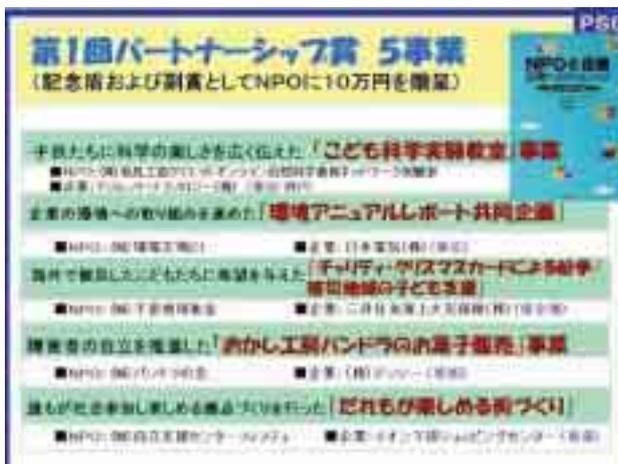
当時の社長が社会貢献にとて敏感な方だったということもあって、とて積極的にやってくださったのです。そういう活動を続けているうちに、実は札幌通運さん、これまで北海道の「行きたい企業のランキング」からいつもベスト10から外れていたのですが、そういった活動がマスコミに取り上げられるようになって、ベスト10に入ってきました。札幌通運さんと一緒に協働したいというNPOも増えてきたそうです。



もうひとつ、そこまでだったら単なる支援ですが、うしろに「はこび愛ネット」と書いています。それからまわりにNPO、NPOと書いています。この「飛んでけ！車いす」の会さん以外のNPOとも行っている「はこび愛ネット」事業とい

うのは、さっきも言ったようにNPOというのは、なかなかお金がありませんので、今みたいに札幌通運さんがボランティアとして関わって来てくれたのを、全部お金に換算すればすごい額になるのですが、自分達が職員を雇うというところまでぜひもっていきたい。そうすると、現金収入も欲しいわけですが、ボランティアだけではなく。それで何とかしたいと、もう一度札幌通運の労働組合の書記長に相談したら、また一生懸命考えてくれました。

それで、見つけたのが、札幌通運はトラックを出して運んでいます、宅配もやれば引っ越しもやるので、その時に、NPOの会員さんがそれを利用したら、利用料金の5%はバックしましょう、という仕組みを考えてくれました。そういう仕組みを考えたことによって、多い少ないはありますが、一番多い時は年間5000万ぐらい売上を伸ばしました。それによって、当然NPOにもお金が入るという風になって、お互いにメリットが出るということです。これがまさにwin-winの協働という関係です。これが第1回のグランプリでした。



その時の入賞事例がいっぱいあるのですが、例えば、NECさん、日本電気さんは続いて入賞しています。いいNPOと協働することが自分達にとってプラスになるということ、特に環境経営というところから言うと、意識的にやっています。つまり自分達の従業員、社員の中の何%まで環境に通じた人を育てようということを目指しています。その目標値に到達する為に、NPOとの協働を採用しているということです。他にもいっぱいあるのですが、近くでいうと青森の八戸ですが、「だれもが楽しめる街づくり」イオン下田ショッピングセンターというところが第1回

の入賞にもなりました。これは今でこそ郊外型のショッピングセンターが多いですが、最初作る前からバリアフリーにしようということをしてNPOと話を進めながらやっていった。しかもそのショッピングセンターの中にデイケアセンターを作った。あるいは託児所を設けた。あるいは車いす同士が行き交いできるような広い通路にした。様々な工夫がNPOと協働することによって行われました。

## 第2回 (2003.11) 大賞

「地域メディアをフルに活用したNPO情報発信」(新潟県)



それから第2回は、新潟の上越市という所です。くびき野に我々と同じようなNPOサポートセンターがあるのですが、上越タイムスというタブロイド版の日刊紙がどんどん部数が減っていつてしまつて廃刊寸前になったのです。これを何とかしなければいけないということで、くびき野NPOサポートセンターと一緒に、その日刊紙の月曜日の1ページから始まったのですが、1ページをNPOにまかせることによって、地域の新聞という徹底した、ここに書いた「まちネタ」「地域の応援団」という風な内容の新聞に切り替えていったのです。そうすることによって、今でこそNPOのことを情報として流すところも増えてきていますが、ここがきっかけになっていると思います。

毎週毎週NPOの情報が出てくるわけですから、そういう意味では、おそらく全国一NPOの組織化率というのは高いのではないかと思います。地域密着型の新聞に切り替えていった。同じ地域の所に、元々の上越タイムスの記者も取材に

行ったり、あるいはNPOの人も取材に行ったりします。そうすると、同じ広告を取ったり、同じ記事が両方からいくわけですから、どっちがより良いもの、あるいはどっちが先に出すかということが、ひとつの勝負になってくるわけです。つまり、そこで切磋琢磨が始まって、とてもいい競争が生まれてきたわけです。したがって、紙面も皆さんに受け入れられるようになった。ということで、1ページから2ページに、2ページから4ページに、という風に増えまして、廃刊寸前だった新聞が、今や3倍にまで部数が増えました。おそらく地方紙の中では最も安定している、つまり値上げをしてもあまり部数が減らない、そういう新聞になっていると言われています。これが2回目にグランプリを取った例です。

第2回パートナーシップ大賞 入賞事例	
NEC学生NPO起業塾 (静岡)	○HPO ●企業 ○株式会社C. ●NEC
日之出産科こどものや あもちゅーらー (北海道)	○北見道子子育て支援センター ●公益法人にぎふ日之出産科産院
東海地方で初の環境の駅・堆肥化ステーションの運営 (岐阜)	○新しいびがれとまおエコステーション ●T.M.エス. ジーシー. 内藤新聞店様
外国人のための無料健康相談 及び検診会 (静岡)	○国際外国人労働者協会 ●マストシ・メチャカヒ. しるく印刷社様
シェルター開発プロジェクト (東京)	○東ベース・ウエンス・ジャパン ●個人宅/プロジェクト

それから、その時も入賞事例があります。これは NEC さんです。「NPO起業塾」というのは、今とても注目されている、若い人のソーシャルビジネスとかコミュニティビジネスという言葉で言われている、新しい事業を、地域密着型の事業を起こそうという若者達を養成する塾なのですが、ここからまた新しい事業がどんどん生まれていきます。こういったものを企業がやっています。

### ○初の環境の駅、堆肥化ステーションの運営事業 (岐阜県)

大きいところだけではなく、例えば新聞店とか聞いたことないと思いますが、岐阜県の環境の機械を販売する会社が古い機械を提供したりして堆肥化を行ったり、おもしろいのはペットボトルや空き缶を粉砕する機械を常時設置しておいて、週2回ぐらいしか回収にこないものを、いつでもできる、しかも当たりくじが出て、当たりくじはまちの商店と連携していて、まちの活性化にもつ

ながる、といった活動をやっています。



これがその写真です。飲料缶とペットボトルと書いてありますが、当たりという文字が出ます。それで、登録店舗35の協力を経てラッキーチケットになって、例えば、焼肉一皿無料券とか、下敷き一枚プレゼントなど、チケットが出てきます。そういったものが地域の活性化につながるわけです。

### 第3回 (2005.6) 大賞

「ビーチクリーン作戦&子ガメ放流会」(静岡県)



これは第3回のパートナーシップ大賞ですが、12年間の活動が評価されたということです。アカウミガメの放流ですが、最初はヤマハ発動機さんのたったひとりの社員が訪問してから始まって1200人まで拡大していったという、アカウミガメの保護と放流、それから海岸のゴミ拾い、清掃を引き受けてやるという活動をしています。

それからここでも色々な入賞事例があるのですが、例えば、長野の「くるくるエコプロジェクト」というのは、ネクストエナジー&リソースという小さな8人の会社ですが、そこが、どちらかというところはNPOの方から働きかけて、北ア

ルプスの豊かな水量を活かして、ミニ水車を作って、それで発電をして、例えば、畑に来る猿を追い払うとか色んなことに使う、こんなことをやっているところです。結構小さな会社がかたまっています、このホームレス支援もそうですし、横浜ビールも 50 人ぐらいの会社です。地ビールの会社です。



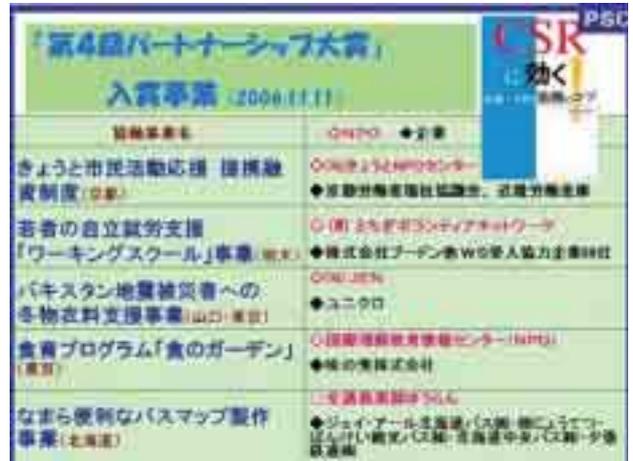
第 4 回 (2006. 11) グランプリ  
「企業が出来るこどもたちへの環境学習支援」  
(兵庫県)



これは兵庫県の西宮ですが、ひとつのNPOと30社の企業です。30社はどのような会社かという、大きなところも小さなところもいっぱいあります。

例えば、JAさんはいっていたり、伊藤ハムさんはいっていたり、生活協同組合はいっていたりとか、この大栄サービスさんというのは産廃業者です。こういうところが入っていたり、つまりこれは食のグループが、食べ物を作って廃棄するところまで、どういう流れがあるかということプログラム化して、すべての企業が1つの事業に対して1小学校や中学校に行き環境教育を

行う、つまり自分の会社がやっていることを全部自分達のプログラムで示していくことで、世の中の仕組みや食べ物の仕組みを理解していく、そういう環境学習です。これが衣・食・住などの6つのテーマに分かれて活動をしていく、というのがこの事業です。



その時の入賞事例です。栃木の「ワーキングスクール」、ここもすごいです。56社と書いていますが今はたぶん70社、80社ぐらいになっていると思いますが、不登校の子供達がもう一度やり直しができるように、その子供達の教育をし直して、その受け入れを企業がやる。

つまり、中高年のおじさん、おばさん達が1人ずつ、その子の面倒を見ながら教育をして、一企業に入ってもら。インターンで受け入れてもらって、そこで訓練を行って仕事ができるようになってもらう。そういう仕組みを作っているところです。

第 5 回 (2007. 11. 10) グランプリ  
「点から線へ、線から面へのまちづくり」  
(滋賀県)



第 5 回、これは廃線寸前の京阪電鉄、大津事業

部ですから滋賀県です。その中の石坂線という 21 駅、14.1km の間を結んでいる石坂線が、路面電車で交通渋滞を招いたりもするので、廃線になろうというその寸前に、市民がそれを何とか食い止めようということで、まちおこしのために、21 駅それぞれの駅をその沿線の住民、あるいは中・高・大学の人が、例えば絵を描いたり、いろいろなもので飾ったりする、これが「点」です。

それから「線」ということで、これは車内が美術館になっているわけです。どこかの学校の文化祭の時には、2 両編成の電車全てが美術館のようにして、全部展示されます。これは美術館になることもあれば、おでん列車になったりすることもあります。色んな電車に変身するわけです。

それからもうひとつは、「線」から「面」へということで、俵万智さんをお願いをして、「電車と青春・初恋、21 文字のメッセージ」、21 駅にかけて、21 文字のメッセージということで全国から募集して、その最優秀 4 点を 2 両編成の両方に 4 つ書きました。書いたのは京阪電鉄の社員です。「うろこ雲 電車の窓に レース編む」これは 15 歳の方の投稿ですが、こういったものが電車に書かれました。この時、電車の中には入賞作品がずらりと貼られていて、私もその時たまたま行ったのですが、心温まる電車に早変わりしていました。

こういったことが、わくわく感のある事業でグランプリを取りました。

協賛事業名	協賛団体/個人/企業名	所属
アイシン環境教育推進プログラム事業	(株)アズネット アイシン精機㈱	愛知
産地化防止・企業環境教育事業	㈱東洋キャスターネットワーク シャープ㈱	東京 大阪
アップルCSO家庭教師養成講座事業	(株)自閉症ピアリングセンター 「ここから」 おせしりクッキー	宮城
障がい者手作りノベルティの共同企画と活用事業	(株)トッパジャー 株式会社	大阪
地域中小企業での若者チャレンジ支援事業	(株)ローコスト 協賛: 佐藤製作所、昭和大学、株式会社	岐阜 高知

その時の入賞事例で環境教育が多いのですが、仙台の事例で言いますと、自閉症の子たちの家庭教師を、普通とは違い難しい部分があるので、その教育をNPOと一緒にやるということです。

これも小さなところですが、そういったことを一緒になってプログラムを開発するというです。

## 第6回 (2008. 11. 23)

### 「地域社会防災力の向上に向けた協働事業」 (大阪府・東京都)

第6回、これは大阪と東京、東京は東京ガスという大きいところではありますが、大阪の小さなNPOが東京ガスさんに、30社ぐらいFAXを送った中で唯一反応してくれたところだったのですが、東京ガスさんがちょうど安全・防犯をテーマに何かやりたいと思っているところにタイミングよくFAXが入ってきて、しかもその後かかってきた電話で、「この人には会わなければいけないと思われた。」とおっしゃっていましたが、その熱意で進めた事業です。

皆さんご存じの昔からあるサクマドロップスを防災のドロップに変えたわけです。災害が起きた時に、本当はガスメーターは簡単に復旧できるのに、それを知らなくて電話が殺到する、それを何とかしなければという東京ガスさんの思いがこういうかたちになったのですが、絵で示してあり、しかもドロップは非常用の食品にもなりますので、それをイベントの時に皆さんにお配りするということをやっています。

協賛事業名	協賛団体/個人/企業名	所属
道野ツーリズム団体総合防災プログラム事業	(株)道野山・道・暮らしネットワーク 道野山自動車学校	岩手
「5本の指」による生物多様性保全事業	シェアリングアース協会 株式会社	東京 大阪
TOA MUSIC WORKSHOP 事業	(株)子どもアーティストの出会い TOA㈱	京都 兵庫
多摩センター百貨店ビル子育てひろば事業	(株)イモ子多摩子ども劇場 多摩センター駅前劇場、パルコ、大塚児童会館(ホール)	東京
環境NPOの地域型環境化支援事業	(株)地球と未来の環境基盤 パナソニック㈱	東京

その時に入賞したのが、「遠野ツーリズム体感合宿免許プログラム事業」という遠野の事業です。遠野山・里・暮らしネットワークというNPOと高田自動車学校さんの事例です。岩手は唯一、今回初めて応募があって入賞したのですが、もしかしたらグランプリを取っていたかもしれないです。

その事例はこういうことです。遠野にあった自動車学校が廃校になってしまって、でもなんとかしなければならぬ。その時に高田から遠野の方に自動車学校を作ってもらいました。ツーリズムと合わせて合宿をしながら、だから我々愛知からも、東京からも、大阪の方からもそこに行く学生達がたくさんいるようですが、そこに行って乗馬訓練だとか農業体験を20日間しながら自動車免許を取るということです。

それと合わせて、おもしろいのは、自動車学校というのは休みの時は人が来る、それ以外は来ない。では、その間どうするかというと、シイタケ栽培と組み合わせながら上手に運用していくというやり方をしているというのが1つの特徴でした。これは皆さん近いところですから、見て頂ければいいかなと思います。

今までの事例に関して、この5冊の本の中に第1回から第5回までの事例が約10ずつ、たぶん皆さんのところにも参考になるものがかかなりたくさんあるのではないかなと思います。このパートナーシップ大賞はNPOと企業の協働が、様々なアイデアで「こんな楽しい事業ができて、しかもNPOも企業もとても役に立つな。あるいは社会にとってもいいな。」と思えるようなものだという事です。

### 3. CSRとNPO

#### 0) CSRとは

## 企業の社会的責任(CSR)

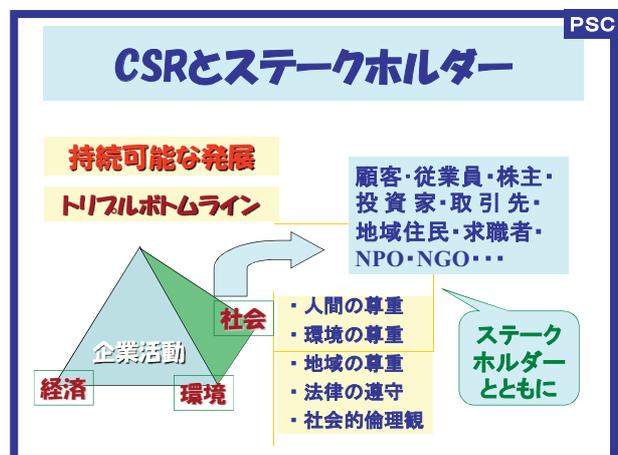
**CSR (Corporate Social Responsibility)とは**

◆ 企業経営において、ステークホルダーに対する説明責任や協働等を通じて、社会における企業のあり方や価値観などを問い直し、人権尊重、関係法令遵守はもとより、社会および環境等の問題を解決していくために、事業その他を通じてそれぞれの存在意義を具現化していくこと

CF=100

少し整理をしておきますと、CSRとよく言われるのですが、これは私が定義づけしておいたものなのですが、企業経営において、ステークホルダー、ステークホルダーというのは利害関係者、例えば従業員であり、取引先であり、株主であり、地域の人達であり、もちろん行政もそうですが、その利害関係者に対する説明責任や協働等を通じて、社会における企業のあり方や価値観等を問い直し、人権尊重、関係法令遵守はもとより、社会および環境等の問題を解決していくために、事業その他を通じそれぞれの存在意義を具現化していくこと、という風にまとめていました。

#### 1) CSRとステークホルダー



皆さんご存知かもしれませんが、トリプルボトムラインという企業の活動においては、経済活動は当然ですが、環境や社会抜きには持続可能な発展は得られない、これは全世界共通した流れ、動きと言ってもいいと思います。

その時に、人間の尊重・環境の尊重・地域の尊重・法律の遵守・社会的倫理観、こういったものが生まれる。それらが、ステークホルダーの人達と一緒にやりますか、というのが今回の大きな趣旨です。

つまり、社会貢献というのはステークホルダーがなくても、もしかしたらやれるかもしれない。自分達だけでやれる活動というのは、企業はいっぱいあると思います。

だけど、あえて自分達だけではやらないで、ステークホルダーと一緒にやるところに、これからぜひ向かっていただきたいというのが、私の願いです。それは私の願いだけではなくて、実は世界的な流れにもなってきているのです。

## 2) ISO26000 と企業の社会的責任 (CSR)

PSC

ISO26000 (社会的責任ガイダンス)  
 ISO/SR 総会 2007年

**◆SRの定義**

**社会と環境に対してその意思決定や活動によってもたらされるインパクトについて、透明性と倫理的な行動を通じた組織の責任とは、**

- 持続的発展や社会的公正と整合のとれたものであること
- ステークホルダーの期待を考慮したものであること
- 摘要される法令や国際的な行動規範と整合のとれたものであること
- 組織の活動に統合されたものであること。

\* 活動に、製品及びサービスを含む。

**◆2010. 11発効予定**

それはどういうことかと言いますと、たぶん皆さん ISO14001 は十分ご存じだと思いますが、今 ISO26000 というのが議論されていて、今年には発行される予定です。もう大詰めにきています。その定義は、今言ったこととほとんど同じですが、ステークホルダーの期待を考慮したものであることとありますし、組織の活動に統合されたものであることです。つまり、自分達の本業と統合されつつ、しかもステークホルダーと一緒にやりましょう、というのが大きな流れになっているということです。

PSC

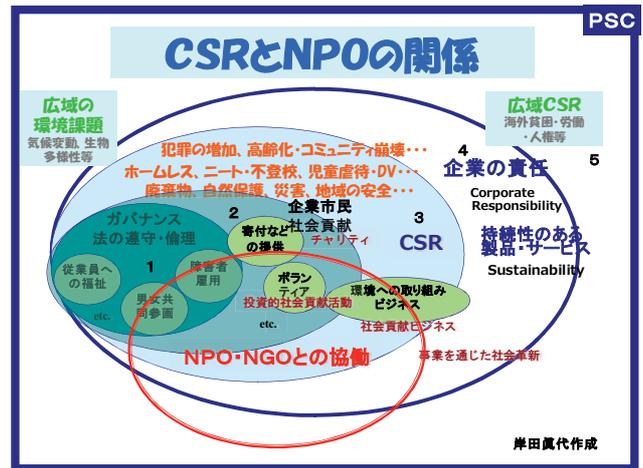
SR7つの中核課題 (ISO26000)

1. 組織統治
2. 環境
3. 人権
4. 労働慣行
5. 公正な事業活動
6. 消費者課題
7. コミュニティ参画/社会開発

7つの中核課題としては、組織統治、環境、人権、労働慣行、公正な事業活動、消費者課題、コミュニティ参画/社会開発、これが ISO26000 には書かれています。これは企業だけではなく、行政もNPOもやらなければならない課題に今なってきています。これらを一緒にやりましょうということになります。

### 3) CSRとNPOの関係

CSRとNPOの関係を図式化しています。



まず、企業の責任というのは、持続性のある製品やサービスを提供すること、これは言うまでもないことで、それに対して一番コアになるのは、企業の側としてはガバナンスと言われている、統治の部分です。それは法の遵守や倫理を守らなければならないというコンプライアンスと言われるものです。その中には、従業員への福祉や男女共同参画や障害者雇用といった課題もあるでしょう。

ただ、それだけではなく企業市民活動や社会貢献、寄付だとかボランティアだとか、それ以外の環境への取り組みだとか、こういったものがこの活動の中にはあるということです。

それは、チャリティだったり、投資的社会的活動だったり、社会貢献ビジネスだったり、あるいは事業を通じた社会革新にまで発展することもあると思います。つまり、どんな企業にとっても自分達が活動している周りには、必ず地域があり、社会がある、これは外せないということだと思います。

その地域や社会にはどんな課題があるか。その地域や社会によって違いはあるけれども、例えばここにある、犯罪の増加・高齢化・コミュニティ崩壊・ホームレス・ニート・不登校・児童虐待・DV・廃棄物・自然保護・災害・地域の安全など色々書いてありますが、この中でもあるでしょうし、それ以外の課題もあるかもしれません。

そういう課題を無視しては、事業活動は本来できないはずだと思います。ここに関わっていくことが、身近なCSRと言っていいのではないかと思います。

さらに、グローバルな企業、例えばトヨタさんとか、そのことによって色々な問題も出てきます

が、グローバル企業にとっては、もちろん製品がおよぼす所までは責任があるということですから、広域の環境問題、生物多様性や気候変動だとか、広域の貧困・人権・労働問題、こういう問題にも当然気を配らなければいけない。これが広い意味でのCSRです。

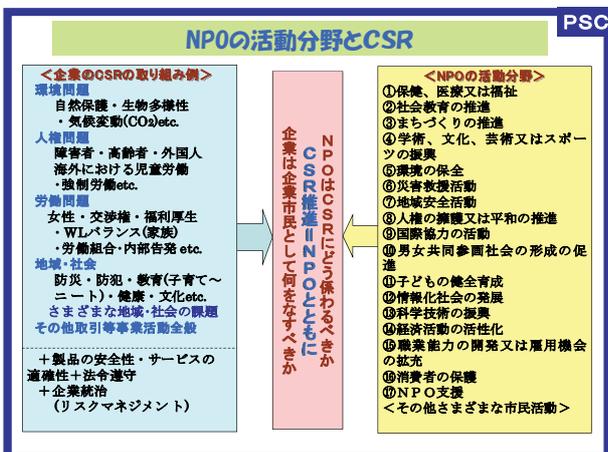
NPOやNGOはこれらの全てのところと協働できる、つまり企業の内部の問題とも、企業が抱えている社会貢献のことも、あるいは身近なCSRに関わることも、製品やサービスそのものにも、全ての分野でNPO・NGOは関わるのが可能だということを理解していただけるといいなと思います。

1、2、3、4、5と番号をうちましたが、パートナーシップ大賞の事例の中から整理をしたものがこの表です。

CSRとP賞事例		
No	CSR	P賞事例(1~5回入賞)
1	ガバナンス ~企業統治	日本電気(環境報告書/環境文明21)
2	企業市民・社会 貢献	札幌、デンソー、日之出歯科、イオンSC下田、いびがわ(内藤新聞店)、アジレント、三井住友海上、マストメディカル、ヤマハ発動機、日本電気、TMエルデ、ネクストエナジー、イオンSC下田、近畿ろうきん、シャープ、アイシン他
3	身近なCSR	飛んでけ!車いす(札幌)、ノボラ(デンソー)、自立支援(イオンSC下田)、浜松外国人医療上陸タイムス(くびき野)、地域づくり工房(ネクストエナジー)、北條倉(横浜ビーレ)、新木NW(ブードン他)、北九州ホームレス(協働会)、いびがわエコステーション(TMエル子他)、サンクチュアリ(ヤマハ発動機)、アサザ(NEC)、ONSEN他(アジレント)、NEO(ETIC)、子育て支援(日之出歯科)、こども環境協会(LEAF)、きょうとNPOセンター(近畿ろうきん他)、G-ネット(岐阜信用金庫)
4	本業(製品・サービス)	上陸タイムス(くびき野)、日之出歯科(子育て支援)、TMエルデ(いびがわ)、横浜ビーレ(北條倉)、トステム(UD生活者N)、帝人(PWJ)、ネクストエナジー(地域づくり工房)、セレクトイ(自閉症家庭教師養成こねっつ)、積水ハウス(トウギャザー)、京阪大津(石坂線)
5	広域のCSR	子供地球基金(三井住友海上)、PWJ(帝人テクノP)、JEN(ユニクロ)

つまり、1、2、3、4、5、全て協働の可能性があるということを示しています。身近なCSRに関わっている例が一番多いのですが、このようにたくさん協働ができます。

### ONPOの活動分野とCSR



企業がCSRで取り組まなければいけない課

題とNPOの活動分野というのは、実はとてもよく似ていて、したがって、企業が企業市民として何をなすべきかを考える時に、一方でNPOはCSRにどう係わるべきか、ということに常に意識していただきたいということでもあります。つまり、CSRの推進はNPOとともにいきましょう、というのが今回の大きな趣旨でもあります。

### 4. 協働事業で得られるもの

~そのしくみづくり

#### 1) 協働事業で得られたもの

協働事業で得られたもの	
企業	NPO
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆従業員のボランティアの拡大・ボランティアマインドの向上</li> <li>◆本業への貢献</li> <li>◆NPOとの協働等のノウハウ</li> <li>◆協働事業そのものの広がり</li> <li>◆会社のイメージアップ</li> <li>◆ネットワークや人脈</li> <li>◆従業員の能力開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ミッションや活動・事業の拡大</li> <li>★NPOの知名度アップ・社会的信用・経済的基盤</li> <li>★企業人との交流・ネットワークや人脈</li> <li>★専門知識等やマネジメント手法の獲得</li> <li>★技術・ノウハウ</li> <li>★情報収集</li> <li>★自信</li> </ul>

協働事業で得られるものとは一体何か。これは第3回までで入賞した人達にアンケートをとってまとめたものですが、企業側は、「従業員のボランティアの拡大・ボランティアマインドの向上」「本業への貢献」「NPOとの協働等のノウハウ」「協働事業そのものの広がり」「会社のイメージアップ」「ネットワークや人脈」、何より「従業員の能力開発」につながるということです。

だから、大いに利用しなければ損だということです。

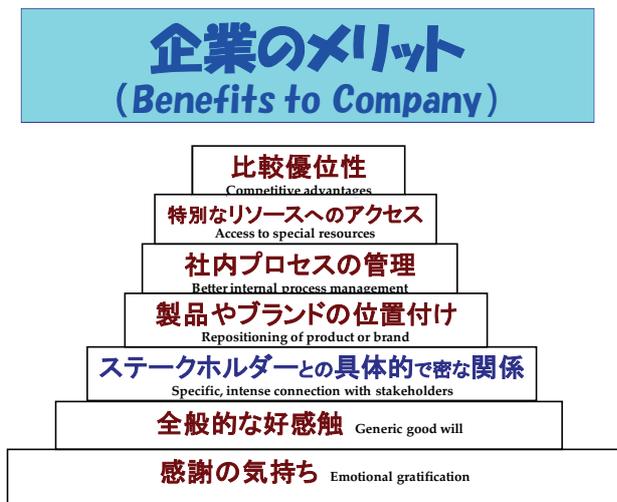
つまりNPOとの協働が従業員の能力開発につながる、たぶんこれは行政も同じで、職員の能力開発にもつながると思います。

NPOの側は、「ミッションや活動・事業の拡大」「NPOの知名度アップ・社会的信用・経済的基盤」「企業人との交流・ネットワークや人脈」「専門知識等やマネジメント手法の獲得」「技術・ノウハウ」「情報収集」など得られるとともに「自信」にもつながるということが大きいです。

### ○企業のメリット

具体的に企業のメリットを整理しますと、これ

はハーバード大学のオースティン教授、第2回のパートナーシップ大賞の時にお呼びしたのですが、その時のものです。



James E. Austin(ハーバード大学教授)

彼は、NPOと協働して企業にとってのメリットは何かというときに、「感謝の気持ち」が生まれ、ここはいい企業だなという「全般的な好感触」が得られる。と同時に「ステークホルダー、つまりNPOとの具体的で密な関係」をつくるのが可能になる。そして、自分達が出している「製品やブランドの位置付け」が、例えば他社に比べて上にいくということです。その上で「社内プロセスの管理」、従業員の能力開発というのはここに入ってきますし、それから、他では得られない「特別なリソースへのアクセス」が可能になる。

おそらくNPOが持っている情報と企業が持っている情報は全く違う、その情報を得ることによって、例えば積水ハウスさんははっきり言っていました。「NPOさんと協働することで、自分の会社は他の会社よりも早く情報を仕入れることができる。先に手を打つ事ができる。それで優位に立てる。」ということを言われました。まさに「比較優位性」ということです。

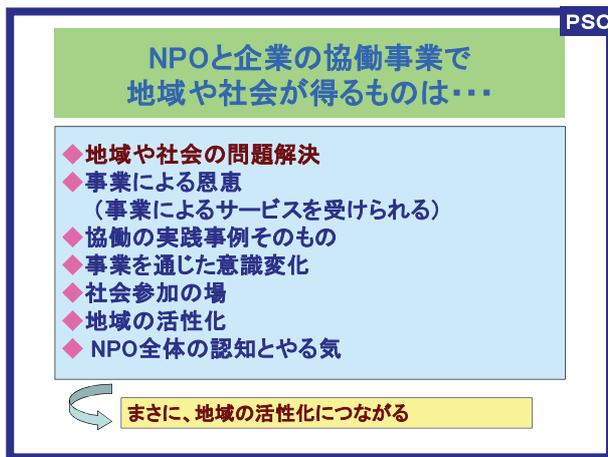
## 2) 協働事業が企業もNPOも成長させる

協働事業で成長できたかという、企業もNPOもほぼ9割の人が「成長できた」と言っています。「大いに成長できた」が7割です。

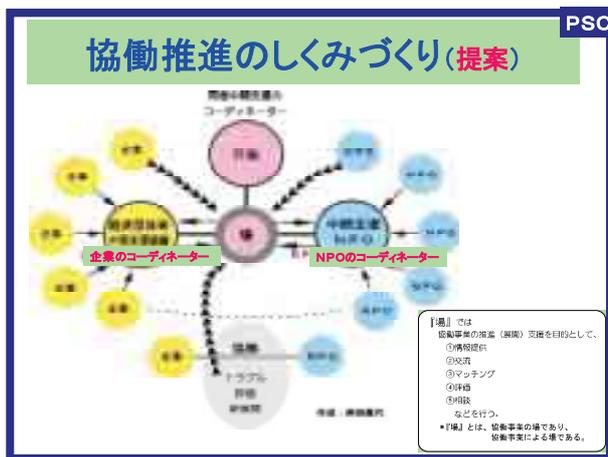
## ○NPOと企業の協働事業で地域や社会が得るものは・・・

お互いがメリットを得るだけでなく、地域や社会も問題解決という大きなメリットが得られ

ますし、事業を通じた意識変化、それから地域の活性化、NPO全体の認知とやる気、といったものが地域全体に広がっていくということになります。



## 3) 協働推進のしくみづくり (提案)



最後に協働推進のしくみ、これは私が昨年愛知県の調査をした時に提案させていただいたのですが、これをおととい愛知県で行った、NPOと企業の協働を推進するための、愛知県主催の意見交換会で、行政がどう関わるかということですが、中間支援のNPOと企業の中間支援の経済団体、商工会議所や青年会議所も含めてそういったところが、お互いに場をもつ。その時に行政が両社の中間支援のコーディネーター役を担う、ということによって様々なしくみづくりが可能になって、色んな協働の見解ができていくのではないかなと私は考えています。

これはなかなか実現しているところはないです。実際に、今年名古屋市で開府400年という事業をやっているの、実験的に行っていて、それを経済産業省に持っていったら、ぜひやりたいと言っているところで、どう展開するかわかりませ

んが、そういう方向で動いてくれるかなと期待をしているところです。

こんな風に、NPOと企業の協働は、12年前につくって始めたのですが、今全国に結構広がりつつあるかなと、これは当たり前のこととして新しい公共の中で取り上げられていると思いますので、ぜひ北上市でもNPOとの協働を大いに振興させることで、今日の表彰をさらに飛躍的にアップさせていただくと私としてはとてもうれしいなと思っています。

どうもありがとうございました。

## 4. 企業の地域貢献表彰式

### (1) 制度概要の説明

北上市地域づくり課 佐々木 範久

企業褒賞制度のしくみについてのご紹介をさせていただきます。後半は、エントリーいただきました、あるいは情報提供いただきました情報についての傾向を簡単にご説明させていただきます。

最初に制度のご説明をさせていただきます。4つに分けております。1つは褒賞のねらい、もう1つは手続きの方法について、もう1つは選考の方法、そして最後にメリット、この4点でご説明をしてみたいと思います。

#### ○褒賞のねらい

1つは普段行われております企業の皆様方の地域貢献の活動、これを知る機会を作りたい、ということです。

もう1つはその地域貢献活動に市民の皆様が感謝をする機会を作っていきたい、ということです。

そして最後、先ほどの基調講演にもございましたが、協働の雰囲気を高めていくということで市民・企業・行政が共にまちづくりに関わっていくという雰囲気を作っていきたい、ということで、この3点がねらいとなっております。

## ① 褒賞のねらい

### ・地域貢献活動を知る

- 企業の地域貢献活動を広く知っていただく機会

### ・地域貢献活動に感謝する

- 企業の地域貢献に感謝する機会

### ・協働の雰囲気を高める

- 市民・企業・行政がともにまちづくりする協働の雰囲気

#### ○手続きと流れ

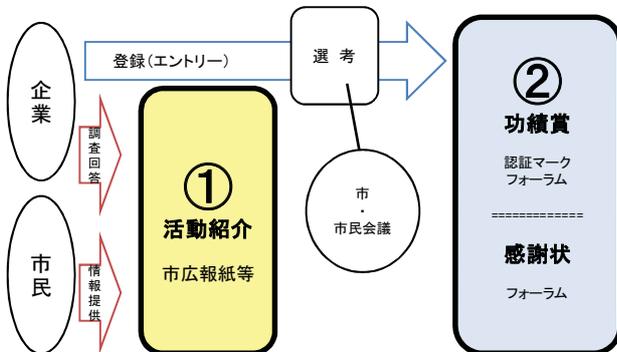
1つは企業の皆様、あるいは市民の皆様から情報を頂戴するという事です。いただいた情報について、市の広報誌やホームページでご紹介をしていく、というのが1つ目の活動です。

もう1つ、今年度からエントリーということで、

企業の皆様方から「これはぜひ功績賞ということで皆様にお知らせしたい」というご意思をいただいたものです。

いうお使用方法をしていただいております。ちなみに真ん中の青いマークが認証マークです。

## ② 手続きと流れ



こちらは、北上市と北上市協働推進市民会議で選考会を開催しまして、選ばれた企業様に対して功績賞を差し上げるというのが1つで、エントリーいただいた企業の皆様方に感謝状を差し上げるという活動、この大きな2つの活動ということになっております。

### ○功績賞の選考

全て登録いただいた活動の中から協働で選ばせていただきました。また繰り返しになりますが、エントリーいただいた企業の皆様方に感謝状を差し上げるという取り組みを今年度おこなっております。

### ○応募のメリット

1つは、広報誌・ホームページで市がPRをさせていただきます。こういった部分で企業の皆様方のイメージアップにつなげていただければと考えております。

また、フォーラムにおきましてエントリーいただいた皆様方に感謝状を贈呈させていただくという部分もメリットになっております。

最後に、功績賞に選ばれた皆様方にはプレートを差し上げるということになっております。また、プレートについております認証マークを、例えばチラシとか名刺、あるいは印刷物に使っていただけるという2年間の特典もつけさせていただきます。認証プレートはこういった形になっております。昨年度受賞の皆様方におかれましては、会社のロビーとかそういった所に掲示すると



来年に向けてですが、手続きが簡単な仕組みになっておりますので、是非お願いしたいということと、また、今年度対象になっておりますが、同業者団体の皆様方、今年度ですと、水道工事業協同組合様ですとかタクシー業協同組合様、そういった同業者団体の方からの情報提供、エントリーも可能となっております。

最後に、市民活動情報センターという市民・企業・行政の活動を結び付ける事業を市で展開しております。この事業におきましては、先生のお話にありましたようなマッチングのお手伝いをさせていただく準備ができておりますので、ご相談いただければと考えております。

以上制度のご説明を終了させていただきます。

引き続き、集約情報の提供をさせていただきます。

### ○今年の傾向からワカルこと

今年度の情報につきましては、67社の皆様方から295件の情報を提供いただきました。その中で、20社、41件につきましては、今回エントリーをいただいた状況です。295件の内訳について簡単にご紹介させていただきます。

第7位は、10件、3.4%で学術文化芸術スポーツ部門です。こちらは、「スポーツイベントの支援」「マラソン大会のボランティア」「少年野球の教室」、変わったところでは「ウォールアートの実施」という活動も取り組みいただいております。

第6位は、13件、4.4%でこどもの健全育成部門です。こちらは、「体験教室の開催」「遊具の寄贈」「サンタさんの訪問」、そういったものもごございます。

第5位は、30件、10.2%で災害救援・地域安全部門です。こちらは、「災害時のパトロール」「こどもの見守り」「交通安全のサポート」、そのような活動です。

第4位は、33件、11.2%で保健福祉等部門です。こちらは、「献血」「高齢者宅の除雪」「車の寄贈」「AEDの寄贈」、こういった活動が行われています。

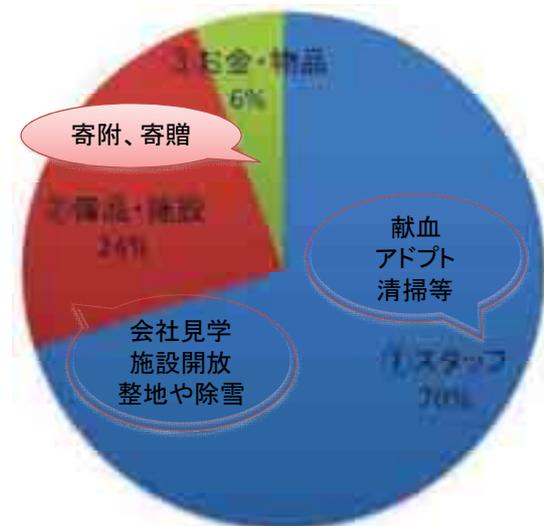
第3位は、36件、12.2%で能力開発支援等部門です。こちらは、「インターンシップ（就労支援）」「測量等の体験」、こういった活動です。

第2位は、67件、22.7%でまちづくり部門です。こちらは、「お祭り等への支援・協力」「会社見学の受け入れ」「イベントの支援」「広場の整地・除雪」、そういった活動です。

最後、第1位、117件、39.7%で環境保全部門です。こちらは、「植栽」「アドプト」「ごみひろい」「リサイクル」、こういった環境系の活動に多く取り組みいただいているという傾向がごございます。

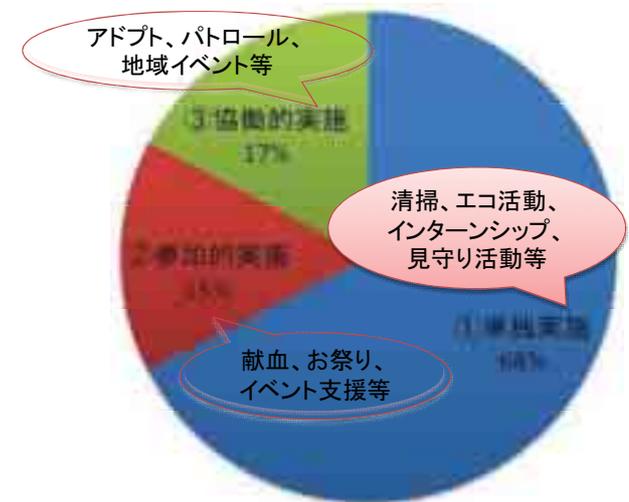
全データの集計状況です。傾向としては、環境保全とまちづくりの部門がかなり多くを占めていますし、伸びているという部分では、職業訓練や防災部門の伸び、こういったものが特徴で挙げられています。

### ○提供いただいた資源



提供いただいている資源として、スタッフ、機材・施設、物品等の3つに分けますと、スタッフの皆さんのご提供というのがかなりのパーセンテージを占めているということがはっきりしております。

### ○取り組みのスタイル



単独実施、協働的实施、参加的実施がどれだけ分かれているかということ、やはり単独での活動が、現状としては7割ほどです。その中でも、協働的实施というのは少しずつ伸びているということが特徴になるかと思えます。

先ほどの基調講演、岸田先生のお話にもありました通り、今のデータからも、マンパワーとか機材といったような資源の部分と、市民の皆さんの想いやニーズの部分がうまく出会うことによって、お互いの笑顔が少しずつ増えてくるのではないかなというデータの整理をさせていただきました。

### (2) 選考のポイントについて

北上市協働推進市民会議 会長  
高橋 敏彦

この市民会議は、北上市の協働推進審議会というのがございまして、協働に関する条例、あるいは協働環境の整備、そういったところで毎年定期的に審議会を開催しておりまして、この事業につきましても当審議会の方で進め方等指示させていただいたものです。

その中で、北上市と市民との協働のかたちでこ

の事業も推進するべきだということで、その審議会が中止になって、市民会議を立ち上げさせていただいたところでございます。

### ○前年度から主な変更点

今年で2回目ということで、前年度からの変更点を主にご紹介させていただきたいと思っております。昨年度は5つのポイントでございました。貢献性・公益性・協働性・必要性・発展可能性、この5つでしたが、2008年度の発展可能性から2009年度の効果性・継続性を重視して選考しようということになりました。

### ○選考の方法特と特徴

登録いただいた41の活動を対象にしまして、6つの観点で採点させていただきました。特徴は、協働で審査するというので、市の市民活動協働推進委員会と私どもの市民会議、合わせて26名の選考委員をもちまして選考させていただき、最終決定を市長にさせていただいたところでございます。

### ○選考の6つの観点

項目	説明	視点
貢献性	会社としての持ち出しがどのくらいあるか	参加した従業員の割合や機材提供の程度など
効果性	活動が、地域社会をよりすみよく、暮らしやすくすることにどのくらいの役割を果たしているか	街の活性化、安心安全、環境美化、施設提供整備など
公益性	どのくらいの人が利益を受けることのできる活動か	受益者数や受益エリアなど
必要性	地域や活動に対するニーズがどのくらいあるか	地域の要望への対応や客観的なデータ等からの推測など
継続性	継続して行われている活動か	こつこつ続けられているかなど
協働性	市民と企業間などの連携や協働があるか、ある場合はその役割分担やバランスは望ましいものか	誰かと一緒に取り組みをしているかなど

貢献性では、参加した従業員の皆さんの人数ですとか、どういった資源を提供されたか、というようなことを見させていただきました。

効果性では、まちの活性化が見られるか、あるいは安全になったかどうか、美しくなったかどうか、そういった効果がみられるかどうか、ということになります。

公益性では、受益者の数、広範囲の活動になったかどうか、ということを見させていただきました。

必要性では、地域住民の皆さんからの要望等があったかどうか、そういうものを把握してされた活動かどうか、ということになります。

継続性では、見てのとおりで、毎年こつこつと続けられている企業様がいらっしゃいます。

協働性では、こちらは市民会議では特に重視させていただいております。先ほどの講演にもありましたように、効果が協働をすることによって上がっていくということで、特に重視をしているということです。

### ○今年度いただいた情報

先ほどの情報と重複しておりますが、67社からの情報提供に対して、登録が20社、その中で41件の活動件数がございまして、選考をさせていただきました。

市民会議メンバーに共通して言えることは、情報提供していただいた企業の皆さん、それからエントリーしていただいた企業の皆さんに感謝あるのみということです。本日も足もとの悪い中ご参加をいただきましてありがとうございました。

### (3) 今年度の活動紹介

今年度のエントリーされた企業の地域貢献活動の紹介をスライドで行いました。

### (4) 表彰式

功績賞受賞企業5社へ功績賞を、応募のあった他14社へ、感謝状の贈呈が市長より行われました。



### (5) 感謝のあいさつ

北上市長 伊藤 彬

企業の功績賞の審査をいただきまして、たくさんの皆様にご応募いただきながら、本日は表彰式を

迎えることができました。ありがとうございます。参加してくださっている企業の皆様には、あるいは団体の皆様には、心から感謝申し上げますとともに、日頃から地域貢献のためにご尽力いただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

2回目になりましたが、最初の発想は、色んな場面において、まちづくりに参加をしながら良いことをなさってくださっている会社、あるいは団体がたくさんあるということに気がついて、まず感謝の気持ちを表させてもらいたいということから始めました。職員の皆さんが色々と考えながら、本日のようなかたちに育て上げてきました。また、市民の団体の皆さんからもたくさんのご後援をいただいております。

いつも感じていることですが、「こんなにも良いことをしてくださっている皆さんがいっぱいいるんだな」ということでもあります。そしてまた、特に表彰だとか良いことをしているという意識がない中で活動なさっているということに大変うれしく思っております。

先ほど、先生から色んなお話をお聞きしました。最近ではCSRの活動や色んなことが言われており、色んな場面で行政も、あるいは地域も、そして企業の皆さんも一生懸命考える機会が多くなっていると思いますが、特別意識をしない中においても、こういう活動が盛り上がってくることは、自然体の中で大変素晴らしいことだなと思っております。

そしてまた、私どもは行政だけでは成し得なくなってきた地域のニーズに対して、どのように対応していくかということ常日頃から考えております。最初に総合計画の中に地域計画について書かせていただきました。これはまさに行政と地域が一緒になってこの地域づくりをして、活力を生み出していこうということでもあります。

最初の頃は、これは行政が考えるのではなく地域の皆さんが独自で考え、独自の行動に結び付けていくという思考をもっていましたので、だいぶご批判をいただきました。「行政は仕事をぶん投げた」とか「地域の方に全部委ねてしまう」というようなお話をいただきました。でも、若い職員も、地域の皆さんも「チャレンジしてみようじゃないか」「やってみようじゃないか」と、ご苦勞をいただきながら最初の地域計画が順調に進みました。

今、最終ラウンドを迎えて、色々な仕上げをしながら、次年度の計画に向けて取り組みいただいておりますが、地域の皆さんも一生懸命取り組みをいただいている様子が見えてまいりました。

まさに、協働のつくり方、協働のあり方を実践でされている方たちだろうと思っておりますが、皆さんの熱心な取り組みは大変ありがたいことと思っております。そういう取り組みの中から地域の輪が広がって、地縁が広がってくると、次世代につながる部分も多くなってくるだろうと思っております。そういう意味でも一層の取り組みをお願いしたいと思っております。

行政の中でもこういう流れの中で、「NPOに聞いてみなければ」「市民に聞いてみなければ」「サークルに聞いてみなければ」という話がよく出てきます。それはそれでいいのですが、聞かなければ何もできないということも困ります。職員は一緒になって考え、一緒になって行動する、自分の理念をきっちり養っていきなさい、そこで対等に議論することが大事なことである、それを忘れないようにしなければいけない、ということをお願いしております。行政も、企業も、地域の人も、みんな対等な立場で、いろんな角度から議論し合っ、それが組み合わさっていくことによって、もっともっとより良いかたちに形成されていくの、だろうと思っております。

今回もたくさんのご応募をいただきました。これがもっと広がっていくようにご支援を賜りたいと思っております。ご参加いただいた皆さん、審査にあたっていただいた皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 5. 功績賞受賞企業の発表

### ○岩手スリーエム株式会社

私どもの地域貢献活動についてお話しさせていただきます。その前に少しだけ会社の紹介をさせていただきます。



■設立 1986年4月25日 (住友スリーエムの全額出資)  
 ■資本 2億円  
 ■所在地 岩手県北上市北工業団地 3-17  
 ■代表者 代表取締役社長 渡藤 彰  
 ■売上高 140億円(2008年12月期)  
 ■従業員数 34名  
 本社グループの一環製造ラインで、国内外へ出荷しています。  
 積極的な社会活動と地域した品質管理のア、日々磨かれています。

1986年4月に北上市北工業団地に工場を設けまして操業を始めました。主な製造品目は感圧粘着テープです。社名にひっかけて、皆様の3m以内に私どもの商品があると話しさせていただいております。

ここにあるものは、ポストイットなどの他に、例えば、自動車であれば1台に30点ぐらい私どもの商品を使っていたりしております。携帯電話であれば20点ぐらい使っていたりしております。変わったところでは、道路標識なども私どもの反射材を使っている、だいたい日本の道路標識の70%から80%ぐらいがスリーエムの商品だと言われております。スリーエム社はアメリカに本社がありまして、今200カ国ぐらいで商品が販売されています。

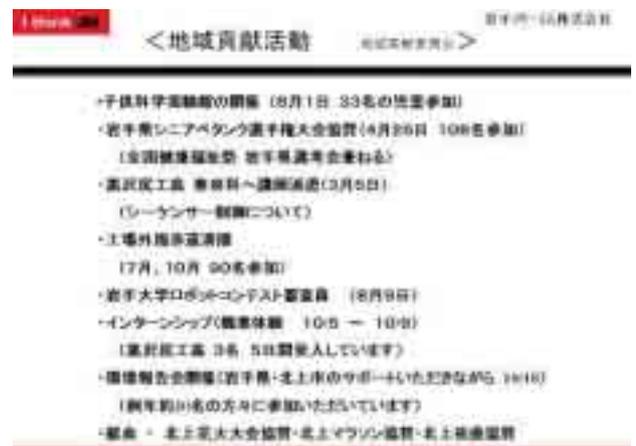


製造拠点はだいたい60カ国にありまして、研究所・製造工場があります。アメリカのスリーエ

ム社が75%、日本の住友電工が25%、ということで、住友スリーエムという会社があります。その中に岩手スリーエムとか山形スリーエムという製造会社を持っております。



私どもの地域貢献活動ということで、毎年色々なプログラムを作って活動を進めております。昨年度は子供科学実験館で賞をいただくことができました。また、今回引き続きインターンシップで賞をいただけたことは非常にうれしく思っております。



今回、賞をいただきましたインターンシップという活動は、高校の先生とも色々相談しながらプログラムを考えて行っています。同時に私どもの工場に生徒を招くだけでなく、社員を高校に派遣して電気関係の制御の講義をさせていただきました。学校ではなかなか教えられないです。

実際に企業に入ってから、学校で勉強したことがどのように役立つかということなども交えながらお話しさせていただきました。工場の方でやるプログラムですが、5日間ということで、当然主な活動は就業体験ということになりますが、毎日帰りに、帰社準備とありますが、ふりかえりの時間として使っております。

工場で働く上で疑問に思ったことや、工場で働いている同世代の、1年2年先輩の社員から、働く上で大切なことは何かということ、必ず毎日お話をさせていただく時間を設けております。その結果、彼らから感想を学校経由でいただいたのですが、私どもが目的にしているようなことを書いていただきました。ここには「コミュニケーションの大切さ」だとか、「勉強するというのは学校で終わるのではなくて一生勉強するんですね。」  
 「会社入ってから色々な資格を取ったり、色々な事を覚えなければいけないんですね。」だとか、「目標を必ず立てるんですね。立てた目標を実際に実行するために自分達が考えなければいけない。考えたことを確実に実行していくということをみんながやっているんですね。」というようなことを書いていただきました。



その他の地域貢献活動としては、工場の外周の清掃、これは工場の外周だけではなく、社内のソフトボール大会やバレーボール大会をやれば、その借りたグラウンドや体育館の周りも清掃するという活動をさせていただいております。



あと、私どもの会社の環境活動の報告会を行ったり、下はペタンク大会の協賛ということで、シ

ニアの方と一緒に大会を盛り上げようということで行いました。



昨年度表彰していただいた、子供科学実験館は2004年から継続して行っております。市内の小学生、毎年だいたい30名ぐらいを招いて、科学の楽しさを体感していただくということで、色々な趣向を凝らして、毎年テーマを変えて行っています。左上の写真は、熱気球を作ろうというテーマで、気体が温まるとどうやってのぼっていくのかということを実験を通して行ってもらったり、下の写真は、ゴムを固めてスーパーボールを作るという実験をしてもらっています。

こういう活動の目的は、なかなか今は科学の実験に時間をとられないということもあって、私ども科学系の会社ですので、子どもたちに科学の楽しさを体感していただくということで、岩手スリーエムのみならず、国内、海外も含めてこういう活動を行っております。

これからも企業市民として地域貢献活動を継続していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



## ○北上市水道工事業協同組合

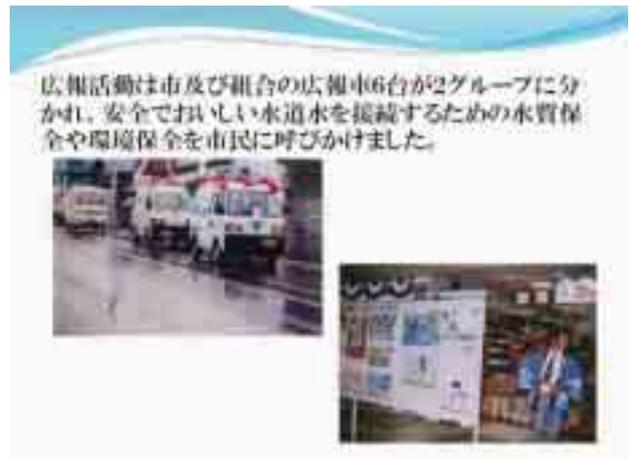


組合の設立が昭和 63 年ということで、今年で 22 年目を迎えておりますが、組合員は市内の水道指定工事店 32 社で構成しています。

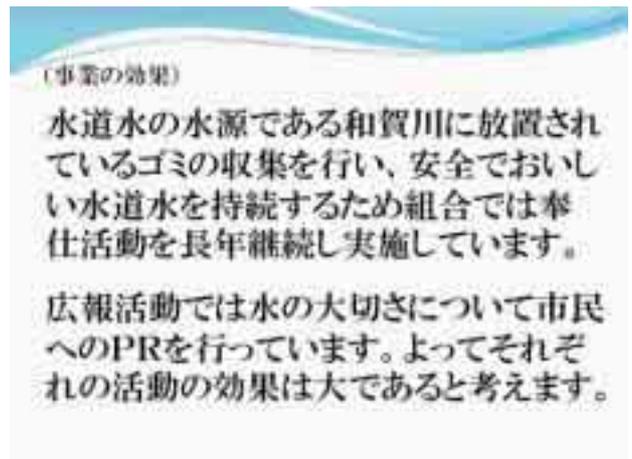
今回は水道週間の事業ということですが、水道週間というのは、現在の厚生労働省の所管で、6 月 1 日から 1 週間と定められております。21 年度、去年の 6 月に第 51 回目を迎えております。北上市の水道関係の職員の方々と、私ども組合員が協働で実施しております清掃活動、それから広報活動について紹介したいと思います。



活動のきっかけと経過ですが、私どもの組合の前身と言いますか、組合の前に北上市水道協会というのを組織しておりました。10 周年を迎えた昭和 51 年に、10 周年の何か変わった事業をやらうということになったのが今の事業です。和賀川の浄水場の出水溝、その辺の河川敷が相当ゴミで汚れているということで、クリーン作戦をしてきれいにしようというのがきっかけだったようです。私どもの組合がそれを引き継ぎまして、今の事業活動をやっております。そのゴミ収集の結果、たくさんのゴミが出ております。

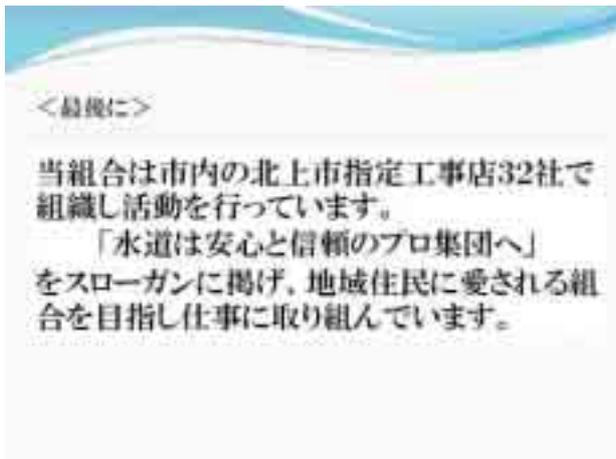


それから、広報活動ですが、車を飾りまして 2 手に分かれて市内を広報してパレードしていくという写真ですが、右下の写真は、平成 4 年から 5、6 年間、江釣子のパルの一角をお借りしまして、水道何でも相談を実施しました。水道の施設に関する相談とか、それから水道水ができるまでのパネル展示、市内の小学生から水道週間のポスターを応募していただきまして展示しました。



この活動を長い間実施してきておりますが、これを通して水質や環境保全に対する意識の向上を図ることができたのかなと思っております。それから、水の大切さを PR することによって市民の意識改革ができてきたのかなと思っております。

最後に、組合では「水道は安心と信頼のプロ集団へ」というスローガンを掲げて仕事を行っていますが、私どもはライフラインである水道施設を守るために、災害時に迅速に復旧工事の活動を行えるような体制を整えています。宮城県沖地震が近い将来確実に起きるだろうと報道されておりますが、それらを想定しながら毎年秋ぐちに訓練を実施しています。



組合では今後においても、専門の技術を活かして色々な活動を展開していきたいと思っております。お客様が安全で安心できる工事を提供していきたいと思っております。より一層信頼されるような組合を目指して、これからも色々活動していきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

### ○北上地区タクシー業協同組合



私達は、基本的に駅に待機したり、色んなところで待機しております、その間どうしても車からゴミが目につくなどそういったことがありました。北上に来る人達に対して少しでもきれいなまちにしたいということもあり、平成9年から続けて13年間やっております。

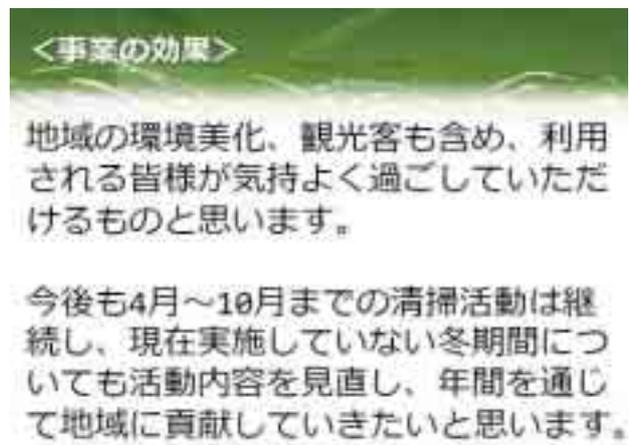
場所は、北上駅の東口・西口、それから私達の組合があります青柳町の万世橋、そういう所を掃除しておりました。

この写真は全体一斉清掃日で、特に7月は、北上は8月に祭りがありますので、その辺りをきれいにしたいということで、市のクリーン推進課にお願いしまして、土嚢をもらったり、拾ったゴミを持って行ってもらうという形で、市の方にだ

ぶ協力してもらっております。



10月については、東口の方が特にそうですが、植木のところに草がのびております。お客様や来る人達に対して、不愉快にさせてはまずいということで、草を取ってゴミ拾いをするということで進めております。これに参加した人員ですが、組合員11社ありまして今期中は308人が参加しています。



効果ですが、地域の環境美化を行うことにより北上市のイメージアップを図っていけるということ、それから観光客の人達に対して、すごくいい雰囲気だなど思っていたらと思います。

それから、駅で清掃している方もおりますし、青柳町の人達に対しても、公共道路を使っておりますので、清掃活動が必要かなということで行っております。

今後の抱負ですが、現在雪のない4月から10月までしかやっておりません。ですから、冬の間についても色んな方法を見直して進めていきたいと思っております。

<福利に>

私共タクシー会社では、タクシー乗車券、冠婚葬祭・贈答用・イベントなどに便利なタクシー券（500円）の販売も行っております。

業界を上げて飲酒運転撲滅を願い、運転代行にも力を入れております。安心・安全なタクシー会社をぜひご用命下さい。

あと、PRになりますが、私どもタクシー会社では、タクシー乗車券、これは1社全部使えます。冠婚葬祭や贈答、イベントに便利なタクシー券も出しておりますので、ぜひ利用してください。それから、業界をあげて飲酒運転撲滅を願っておりますし、運転代行にも力を入れておりますので、安全で安心なタクシー会社をぜひご利用ください。

○株式会社ケー・アイ・ケー

2月6日（土）事例紹介

みんなの地域貢献フォーラム

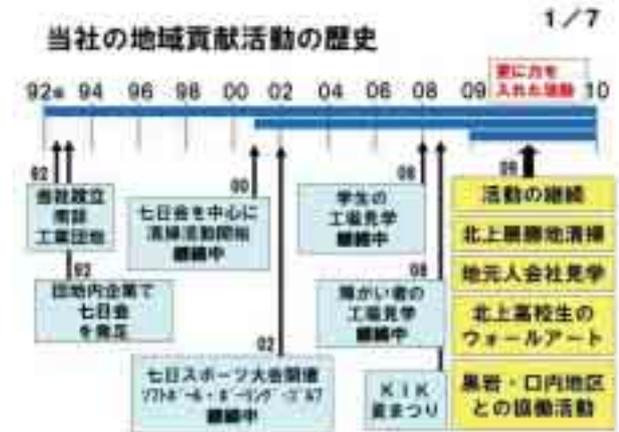
～地域に根づいた活動～

(株) ケー・アイ・ケー

地域に根づいた活動ということでテーマを考えました。

ケー・アイ・ケーという会社は、今従業員は320人、関東自動車が作っている車の部品を作っております。

当社の地域貢献活動の歴史を振り返ってみますと、92年に当社が設立されまして、南部工業団地にきました。それからまもなく、七日会に入りまして、98年までは七日会を通じたボランティアをやってまいりました。2008年からは、学生の工場見学とか障害者の工場見学とか会社での夏祭り、ということを始めまして、地域の方と一緒にやってまいりました。2009年からさらに力を入れた活動をしようということで、今までの活動は継続するのですが、その他に下にあるようなものを今回やりました。



当社の地域貢献活動の考え方ということで、4つの大きな柱がございまして、お客様への信頼、従業員とその家族の幸せ、会社が継続的に発展・成長する、それともう1つ、地域社会との共生、地域なくしては我々の会社はないという考えから、このようなことを考えています。北上市との協働で、地域に根付いた活動をということで今年頑張りました。

当社の地域貢献活動の考え方



今までの地域貢献活動は継続し、更に地域（北上市）と協働し、根づいた活動を目指す

活動事例ですが、分類しますと、公共施設の清掃、高等学校や障がい者の会社見学、それから一番地元であります相去地区との地域交流ということで工場見学もやってまいりました。下の写真

は、私どもの会社のコンクリートの壁に、北上市の4つの高校から40人ほど来ていただきまして、魚の絵を描いてもらっています。これも非常に良かったなと思っています。

3/7

**地域貢献活動事例**

**公共施設の清掃**

- ・ 農産地「桜まつり」あとの清掃
- ・ 農産地「花火大会」あとの清掃
- ・ 七代会清掃活動（2回/年）

**高校・障がい者の会社見学**

- ・ 花巻東35名・専大北上35名・
- ・ 黒沢尻工業30名会社見学
- ・ 障がい者37名会社見学

**相去地区との地域交流**

- ・ 当社にとって一番の地元である「相去町」の方20名の会社見学

**高校生のウォールアート**

- ・ 北上市4高によるアート50名



それから、去年度の大きな活動の中に、やはり地域の方と絆をつなぐということをお頭にやってまいりました。

4/7

**地域貢献活動 黒岩地区**

**地域の方との絆**



「湧湧ランドくろいわ」の野菜収穫イベント手伝い、いただいた野菜を社員食堂に

ひとつは黒岩地区での活動ですが「水車祭」というお祭りがあるのですが、舞台の作りからお祭りの運営を一部やらせていただいて、それから後片付けもやらせてもらいました。また最近では「湧湧ランドくろいわ」というイベントがありまして、野菜の収穫・販売等もやらせてもらいました。その時、たくさん野菜をいただきまして、社内食堂でも使わせていただいております。

それから、もうひとつ口内地区の方々と絆を深めるということをやってまいりました。これは新入社員が、「浮牛城」という所があるのですが、その開墾をやらせていただきました。それが縁で右の写真は、口内地区のセンター長から楓の木をいただきまして、私どもの17周年記念の記念樹もお迎えをしていただきました。それから、口内地区のセンター長から、「ケー・アイ・ケー野

菜畑」という立派な看板も作っていただきまして、野菜畑を経営してまいりました。この野菜についても11月には全部収穫しまして、食堂でも使わせていただきました。

5/7

**地域貢献活動 口内地区**

**地域の方との絆**



新入社員が4回植樹作業  
自社設立記念日に農の本を継ぎさの記念植樹  
ボランティア活動で開墾した農地に立派な「ケー・アイ・ケー野菜畑」を作って頂き  
収穫を分けながら関係先

6/7

**地域貢献活動 口内地区**



大根・白菜の収穫を地域の方と一緒に行なう  
社員食堂で  
社内のスポーツ大会  
収穫した野菜を使った「芋煮会」を開催  
農産品販売員研修をテストに

社内でもスポーツ大会ということでマラソン大会をやっているのですが、この時にも芋煮会をしまして、昨年は大根と白菜はたっぷり食べることができました。

7/7

**地域貢献活動が、人財の育成と成長に大きく役立っています。**

**今回の表彰を糧に、更なる地域に根づいた活動をします。**

ご清聴ありがとうございました。

最後ですが、この地域貢献活動が私どもの会社にとって人材の育成と成長に大きく役立っていると思います。ボランティアに行った人が一回りも二回りも大きくなっていると思っております。

今回の表彰を糧に、更なる地域に根づいた活動をしていきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。



## ○株式会社スパット北上

### リサイクル遊具の寄贈 走るAED(体外式除細動器)

### 株式会社スパット北上

このたびの受賞で多くの方々に我々の活動を広くご認識いただけたということに対して、なお一層自信を持ちながらも懸命を尽くして、地域が活性化できるよう我々ができることをしていきたいと思えます。

当社は建設業、産業廃棄物業、解体工事・舗装工事、産業廃棄物・一般廃棄物の処理を主として、夢と希望を持って元気よく、笑顔と汗を提供するサービス業でございます。常日頃から、従業員が40数名おりますが、自分達にできることは何なのか、当然お金をいただく技術となれば舗装工事、解体工事、廃棄物を処分するということが我々の技術となってきますが、自分達個人、経営者も含めて個人ができること、社員のできることは何なのかということ、地域を愛する気持ちとその行動です。

我々は、毎日の朝礼の中で、今日できること、尽くすこと、それを見つけ出すこと、それを常に

意識しながらも会社経営、またスタッフはコミュニケーションを図っております。

我々の会社の入口に小さい、かわいい「くにみ保育園」という保育園があります。毎日のように、何十台、何百台ものトラックが、その保育園の前を通過させていただいています。常日頃本当に申し訳ないと思っております。

そこで我々ができることということで、保育施設を中心にしてはいますが、例えばいらなくなった廃棄物、これはくにみ保育園さんのみならず、他の保育園さん・幼稚園さんともコミュニケーションを取らせていただいておりますけれども、廃棄物の処分、また除雪作業も含めまして、自分達のできる時間の中でやれることを毎日やらせていただいております。

昨年たまたまのご縁で、花巻の保育園さんから「使えなくなった遊具があるので処分していただませんか」というご依頼がありまして、現地の方に出向いてその遊具を見させていただきました。

<活動のきっかけと経過>

花巻の保育園から撤去の依頼

↓  
修理すればまだ使える

↓  
くにみ保育園からの要望もいただく

↓  
北上市の企業のネットワークで修理

↓  
2カ月後に安全な遊具を保育園に納入

(撤去前の写真-花巻)



非常に大型の遊具でございます、市立の保育園でしたので予算をいただいてこの遊具を処分することと新しい遊具を購入することは決まっておりました。「今週のうちに片づけていただませんか」というお話でしたので、目先の利益とい

うものを追求すると我々は処分屋さんですので、10数万円、20万円ほどの費用をいただいて解体をするというのが通常の流れですが、我々ができることという目線で見たならば、いかにお金をかけずに処分することができるのか、くにみ保育園さんの遊具も思い出して、非常に老朽化している部分と、施設が狭いですからたくさんの遊具は置いていないので、まず持って帰って園長先生と相談してみようと思い、写真をとって、相談させていただきました。

これが適正な形の中で子供達に提供できるのであればという話で、必要です、欲しいですという希望がありましたので、花巻側の保育園の方に行きまして「我々はリサイクルを目的として遊具を運搬するので、その費用だけいただければ片づけします。ただしリサイクルさせていただきませぬ。」ということで、搬出事業者の10数万円の経費も圧縮できました。

持って帰ったのはいいのですが、自分達には遊具をなおす技術はありません。協働運動という言葉もあります、自分達だけではできませんので、鉄工所、または木製の加工・塗装といった技術をもっている仲間に声をかけまして、ぜひ子供達の笑顔を見たい、協力してほしいというお話をしまして、快く協力いただいて、これを復活させることができました。

(設置後の写真-くにみ保育園)



(検査済みの証)



当然1万、2万という予算ではなく、ある程度かかりましたし、相当数の人員をかけて復活しました。今検査が厳しいようですので検査とおして、くにみ保育園さんに寄贈させていただきました。寄贈させていただいてから、一緒になって遊具をなおしていただいた企業の方々と、子供達の笑顔を見るなかで、これが本当に自分達ができることではないかと。

次も機会があればぜひ、遊具に関わらず、自分達にできることを、相手に対する「思いやりの精神」をもっていけば、もっともっと色んなかたちで地域に対して落とし込むことができるのではないか、という気持ちをもって本年も活動させていただいております。

#### <地域活動に対する思い>

- 地元企業として、地域に元気と笑顔を提供するための活動を率先して行うこと。そして、話題づくりも自発的に行うこと。
- 地元からの協力もあって、会社が経営できていることを社員一同決して忘れることなく、地域愛をもって就労する。
- 自分たちが出来ることを「思いやりの精神」をもって、意欲的に行うこと。
- 自分たちの笑顔は、向かい合ってくれる人たちの笑顔によるもので、決して自己満足してはいけない。

最後になりますが、本年も雇用という部分で、非常に就職難であります。当社では、新産業ということで飲食店をやりまして、現段階で4名の高校の新卒者、12名の中途採用者の雇用を決めて、新たなかたちの中で真のサービス業と地域の連携運動、またひとりひとりがサラリーマンの意識ではなく経営者、企業家精神を植え付けたく、本年も活動をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。



## 6. 北上市の企業の地域貢献活動の特徴と今後の展望

講師：岸田眞代氏

みなさん、ご発表ありがとうございました。私の方から感想を述べさせていただきたいと思います。私は先ほどから申し上げていますように、いろんなNPOと企業の協働を、ここ数年、10年近く見てきましたので、正直申し上げますと、たぶん似通ったような事例がいくつか出てくるだろうと思っておりましたが、特に最後の2つの事業は、その中でも非常に新しい、自分達独自の活動ではないかと思い、本当に感激しました。

今回特に、何々部門というかたちで名前をつけていらっしゃいますが、このことが私はすごいなと思います。感謝状を渡して、感謝の気持ちを伝えたいという気持ちが、今の言葉にもこもっているし、先ほどの、会場を暗くしてスクリーンでみなさんの活動を流すということのなかでも、すごく褒められていて、このイベントそのものが心のこもったイベントになっているなということを感じさせていただきました。

それから、NPOと企業の協働をもっともっとすすめていくということから言うと、地域貢献ということが、単に企業だけでできることではなく、同じできることでもそれをNPOと一緒にやるということを言いたいわけです。例えばで申し上げますと、清掃活動というのは色んなところがやっているし、もっとやっているところは山ほどあるかもしれないなと正直思っています。

しかし、例えば科学実験などをやる場合でも、間にNPOが入ったり市民が入ることによって、もっと違った角度からいろんな活動が展開できるのではないだろうか、というのが私の想いです。というのは、大きな会社になればなるほど、NPOや市民が関わらなくても地域への貢献はたぶんいくらでもできます。おそらく行政の方から言うとそれはそれですごくありがたいことですし、全体から言うと、地域を良くするし社会を良くするし、ということで間違いのない事実です。

それをあえて、NPOと協働でとか市民と協働で、と申し上げるのは、NPOがやろうとしている気持ち、意識そのものが、企業とつながることでお互いに、先ほど出てきましたケー・アイ・ケ

ーさんが「人材育成と成長につながった」とおっしゃいました、このことだと思います。これは、違う文化、違う意識を持っている人達と関わることで初めて生まれてくるものです。同じ文化や同じ組織の中ではなかなかそこが得られないものというのがいっぱい出てきます。私はそれを大事にしてほしいと思います。例えば、障がい者の団体と企業がつながることによって、企業の中に、地域を見る目とか人を見る目とか人権に対する意識とか、そういったものが知らず知らず育ってくるという経験をたくさんしてきました。そういう意味で、違った文化と一緒にやるのが、結果としては同じであっても、そこに違うつながりが生まれてくるということ、これから先また一歩進めていただく時にめざしていただきたいところだと思います。

NPOと企業の協働の中には、例えば、NPOや市民に対して企業の側が一方的に寄付だとかボランティアを行うチャリティ・慈善というやり方もひとつあります。もうひとつは、NPOと企業、市民と企業、お互いがそれぞれがメリットをもたらす、ということです。もうひとつ、NPOと企業が協働しながら、なおかつ地域や社会もそれによって色んな変化や潤いをもたらしていく、つまりメリットが得られる、winの関係、win.winの関係、win.win.winの関係、そういういくつかの段階があると思います。私はこれからの活動というのはNPOの側も育たないといけない。ただお金や人を求めるのではなく、協働しようと思ったらいっぱいアイデアを出さなければいけないです。お互いが育っていく、という意味で私達が考えている協働の社会というのは、お互いが補完し合うと同時に知恵を出し合って、今までにないもの、新しい文化や新しい地域、新しい社会をつくっていくことにこそ意味があるのではないかなと思っています。

今日の発表は、北上市はこんなに地域貢献の活動が進んでいるということを確認させていただいて、さらに一歩、次の段階へ進む企業がたくさん出てくださることを心から期待して、私のまとめの言葉にさせていただきたいと思います。簡単ではありますが、そんなことを感じさせていただきました。私の方から感謝の言葉を述べさせていただきます。ありがとうございました。

## <ふりかえりカードから>

- 多くの企業が独自の多くの貢献活動をしていることに驚かされました。地域や他団体、NPOとの連携がもっと拡大すれば尚良くなるものと思います。
- 地域貢献を何かしたいと考えている企業が沢山いることは以前から気が付いていましたが、このような表彰制度を軌道に乗せたことは大変素晴らしいことだと思います。今後、市内企業の地域貢献が間違いなく活発になっていくと思います。
- 基調講演は内容がかなり専門的で、私の理解力を超えるものがあり、消化不良気味であったが、具体例の説明で少しは理解できたように思う。地域の企業もいろいろと地域貢献活動に取り組んでいることがわかったが、地域としてももっと企業との連携を深めながら、地区民との協働活動を組織していきたいと思っている。
- 開催場所をもっと市民が集っている場所で（さくら野、パル）行ってみてはどうか。（パネル展示も含め）せつかくの活動が伝わらない。
- 地域の中でも社会貢献に取り組んでいる企業が多いのを知りました。地元の企業について見直しの目を持つことができました。
- プレゼン資料（パワーポイント）がとても解り易い。ポイントを絞って大きな文字。所要時間出来れば2時間以内が望ましい。基調講演は大変有意義な内容でした。但し、セットで行うと時間を費やすので今後検討を要すのでは。
- 大変勉強になりました。担当の方の努力に敬意を表します。
- 企業単独ではなく、今後は行政、NPOと協働を図った貢献活動を視野に入れて邁進いたします。
- 各企業の取り組みを見せてもらった中で、素晴らしいと感じる取り組みが多々あり、非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- 基調講演により行政、企業そしてNPOの関わり方等知ることができました。行政は画一的なものがある中、企業からの貢献を受け、どのようにして感謝を表しているものか「ことばと笑顔のみ」でしたが、今回このような功績賞を柗スパット北上様がいただいでくださり、私からも感謝いたします。「子育てはすべての人が関わりを持つ」当園は法人ではあるが、地域住民の方がすべて役員、地域に子どもは少ないが他地域から集まってきてくれています。企業の方々のたくさんの地域貢献活動をうかがい、自分達もその和の中にはいっていかねばならないことを知りました。ありがとうございました。
- 初めての出席でありましたが、大変に感動しました。口内の地域づくりにケー・アイ・ケーと交流できたことが今後に夢を与えてくださいました。今年は昨年以上に努力したいと思います。企業の方々も一生懸命なんだと改めて感じました。これからも頑張りたいと思います。
- 他社の活動を詳しく知るよい機会であり、今後の活動の知識を得ることができた。
- 岸田さんのお話を聴いて、企業とNPOのパートナーシップについて新たな視点をすることができました。16地区の交流センター（自治協さん）と、企業との交流に大きな可能性を感じます。まち全体で“ほめるしくみ”、素晴らしいことだと思います。まちのために、真剣に活動する多くの皆さんの活動を知り、勇気をいただきました。ありがとうございました。
- 講師のお話はとてもわかりやすく、内容も刺激になるものでよかった。表彰を受けた企業の取り組み内容は昨年よりも良かった。また、内容の発表も成果を強調したもので、他の会社にも考えさせる内容となった。このフォーラムの持ち方について講師よりおほめいただき、大変うれしかった。